

練馬区小中一貫教育資料作成委員会（第6回）「体力の向上」部会 要点録

開催日時	平成21年10月9日(金) 午後3時30分～午後5時30分	
会場	練馬区役所本庁舎19階 1906会議室	
出席者	委員	米津光治、赤木宏行、杉原 昇、宮野いずみ、工藤智昭、高橋健司、畑 陽子（敬称略）
	その他	教育出版
	事務局	渡辺浩一 指導主事

1 挨拶

アドバイザー

前回は非常に議論が深まった気がする。今日の資料を見ると、この部会としての考え方や前回話題になったことがかたちとして仕上がっている。これをベースに話し合いを深めたい。

事務局

まず、要点録の訂正があれば、協議に入る前に確認したい。小中一貫教育資料作成委員会の設置に関してという資料には、桜小中の学校長が作成資料を参考に教育課程を編成する位置付けになっている。現行、または新学習指導要領に沿ったかたちで、この参考資料も作成していくという方向で進めたい。

2 協議

事務局

A4 判に重視する指導項目で三点挙げている。大きく括ると、三つのうちの二つめが、運動に必要な技能を高めていくこと。二つめは意欲面、運動の楽しさを十分に味わい、運動が好きになって自分から意欲的に運動に親しんでいく。三つ目は、健康を保持増進するための知識や理解、座学を中心にしたものが必要ではないか。この重視する指導項目について、意見をいただきたい。

委員

やはり体育なので技能を最初に入れて、体と心、知識理解というふうに大きく柱立てをしたことはすばらしい。体育の一番大切な三本柱で迫っていくスタンスはとてもいい。

事務局

学習指導要領とも読み合わせながら、教育課程を編成していく上でも有効に活用できるのではないか。重視する指導項目の表現の仕方、統一は図られていない。

事務局

これは前回の第1次の報告書のプロット案でいうと、7番のところ。A3 判にして2ページ分。1番目から6番目の内容を分担しながら作成に入る。こちらは見出しとか大まかな文言と

かで、それをそれぞれの項目で詳しく書いていくような流れで考えている。

委員

6番のところは、三つの重視する項目をどのようにはぐくんでいくかを具体的に書く。

委員

キャリア教育のほうは、Ⅰ期、Ⅱ期、Ⅲ期で何かキャッチコピーみたいなものがあるが、ほか部会は、設けていないのか。

事務局

特にこういった文言をすべての部会が入れているわけではない。

たたき台として、まず運動に必要な動きや技能で、体づくり運動を軸にしたらどうかということで、提案いただいた。特に新学習指導要領では小1から体づくりが行われるので、中3まで体系化できるといい。続いて、運動の楽しさ、意欲面で「運動に親しむ態度」。ここにはクラブ活動や部活動を入れた。そして部活動はクラブ活動の代替として可能かということ。冒頭で伝えた通り、クラブ活動と部活動の目的は若干異なる。クラブ活動は4～6年生で実施し、6年生からは部活動に参加をしたい子どもができる機会を与える。この仕組みは、今後話を詰めなければいけない。小学校の先生がどうかかわっていくのかとか、週に何回もある部活動にどうやって入っていくのかとか。桜小中では、もう部活動の取り組みはスタートしている。

その右側、運動の楽しさを味わうところで、学校行事を位置付けられたら。小学校は、縄跳び大会とか、持久走の月間に取り組んでいる。中学校では、校内マラソン大会、水泳大会や球技大会などを契機として、子どもたちが自主的に自分の時間を使って練習を行ったり、意欲的に運動に親しむ態度が養われるのではないかと。運動会も小中が縦割り班でグループとか団を組んで対抗戦になるのか。三つ目、健康を保持増進ということで、生活習慣等を正したり、知識や理解面をどのようにはぐくんでいけるか。一つは小学校3年生から行われる保健の授業。中3まで帯になっているが、特に生活習慣を取り扱う学年があると思うので、この学年でこういう単元を折り込んでいけるか。また食育は、家庭科で特に食に関する指導内容があるので、学年によってどこで行われるか。また、総合的な学習の時間。例えば保健や家庭科で食や生活習慣の指導が抜けてしまうところで、意図的に健康の保持増進にかかわるような取り組みが考えられる。あとは特別活動として給食指導。これは学級活動や給食等も含めてだが、保健や家庭科、総合等のかかわりを見ながら、特別活動や学級活動を使って指導ができる可能性があると思った。最後に、この三つ以外に全学習期を通じて学習する内容。一つが、自らの体力に関心を持つ。身体力テストの体力調査の活用。桜小中ではどうするか、提案できるのでは。あとは二つ、体育の特性として、集団で協力しあって授業やクラブ・部活動、または学校行事等を行うこと。こういう活動を通して、規範意識とかお互いに協力する態度を育てていくことができるのではないかと。最後、保健指導。生活習慣のチェック週間とか、全体で生活習慣を見直してみようとか、全体でそういう指導も取り入れていくことができる。今は大枠で示しているが、こことそれぞれの学習期に目指す子どもの姿もあるので、リンクさせながらこれができるのではないかなというのを、具体的なものにしていけるよう提案した。

委員

この7番目。今、説明をしていただいたが、運動に必要な動きや技能の柱に関しては体づくり運動をベースにして動きや技能を出していくという話だがいかがか。

やはりⅠ期、Ⅱ期、Ⅲ期を通して、体づくり運動だけではない。それぞれの領域も入れたい。例えばⅠ期であればゲーム、ボール運動から球技とか、水泳、器械、表現、ダンスも入る。陸上、武道とか領域をこちらにも入れないと違和感がある。それから右の健康の保持増進するための知識理解とか、全学習期を通じて学習する内容とか、これをもう少しスペースを小さくして、動きや技能、態度面のところを膨らませてあげるといいのでは。

委員

カリキュラムに、いろいろな領域を入れた場合、プロットで書かれている説明も全部書いていくのか。そうするとページ数が足りない。

事務局

一案として、5番は体づくりをメインに置いて書き、カリキュラムにボール運動などを入れて、重視する指導項目の「運動に必要な動きや技能」という欄で触れることができると思う。

委員

大胆な意見を一つよいか。今武道必修化に伴って、体力も向上させて安全面を配慮させるといって柔道の領域で受け身がある。小学校低学年時に身を守る受け身の術を教えることで怪我の発生は格段に減ると思う。それをこの体づくり運動の中の領域として入れると、武道領域、柔道の受け身になるが、小学校では導入できないのか。この体づくり運動は、小学校で言えば体育の授業で、中学校で言えば保健体育の授業の範疇だから、できなくもないのか。

委員

学習指導要領に沿ってと言うと武道だけれども、いろいろな動きの中にそのような動きを入れていくことはできると思う。

部長

以前、先生たちが持ってきた体力向上の育成カリキュラムの資料の中の体力作りのところを見ると、以前話題になっていた体ほぐしの運動とか、体力を高める運動という文言が随所に出てくる。それをこの中に散りばめていくことは当然必要。今の武道も、24年からは男女共修で取り組んでいかなければいけない内容。それを考えれば、一貫教育の体育の授業の大きな目玉である武道の必修化を、どう捉えていくかも一つ。だから、体力を高める運動の中の一つのエリアとして捉えることはできると思う。

事務局

本委員会では1年次の報告書は、どういうことをねらいとして持つとか、どんな項目を取り上げていくかで、2年次に具体的な項目立てをして指導資料として作成する。だから現段階においては、方向性としてどういった項目を取り上げるかが見えればOK。

委員

体づくり運動でも、体力を高める運動、体ほぐしの運動は全部にある。Ⅰ期、Ⅱ期、Ⅲ期の違いを出すとする、細かく入れて特徴を出していかないと。

事務局

例としていくつか示すことはできる。例えば転ぶとか運動例があったとして、それが縦の流れの中で継続した指導、ゆくゆくは柔道の受け身などに関連していくような流れは考えられる。

委員

中学校のほうで、「運動の楽しさを味わう」とか「運動に親しむ習慣を育てる」とか学習指導要領の文言がある。そこに「健康・安全について」とあるが、どこかでうたうのか。

事務局

全学習期を通じてというところで、どこか要所に入れていくことは可能かと考えている。

委員

私が言った内容は、まさにこの体力を高める運動と安全面が合致しているところ。この領域自体、学習指導要領にのっとってやるのであれば、まとまった時間で最初のほうにやる。小学校の体づくり運動は、今回の指導要領でどのぐらいやれと出たか。

委員

定かではないが、単元として巧緻性を培う部分と、持久力、力強さも含めて7、8時間あるのではないか。

事務局

中学校は最初、まとまった時期に7時間やれと出ている。

委員

体づくり運動の究極のねらいは日常化。その時間で運動のやり方とか楽しみ方、アレンジの仕方を紹介しながら、低学年から積み上げることによって、自分で工夫して運動すること。だから小学校は日常化に究極の目的を置いているので、いろいろな楽しみ方を紹介しながら実践して、自分たちで日常的に取り組んでもらうというのが趣旨だ。先ほどいいと思ったのは、安全面。やはり、体づくり運動の中でⅠ期では巧緻性、敏捷性とか。転んで身を守ることは本当に付けさせたい事項。低学年の指導者がいない。そして体づくり運動をどう指導していいか分からないので、これからどう体系化していくか。あとはⅠ期で巧緻性を培い、Ⅱ期で持久性、そして高校に行けば力強さ。そんなふうな体づくり運動の系統性、段階性を持たせていくのか、それから練馬区の体力調査で足りないところを補うカリキュラムを目指すのか、やはり体づくり運動を通していくのはこの部会の大きな役割かと思う。9年間の見通しが見えるといい。

事務局

学習指導要領で、Ⅱ期の子どもたちには持久的なところを特に取り扱うということもあるので、それと本区の体力調査の結果で弱い部分とか課題の運動事例を、ここに挙げていくことが可能だと思う。実は今年、初任者に安全指導ということで柔道の受け身を応用した研修を行なった。これを体力向上の部会である程度体系化していくことも面白い。

委員

体づくり運動の中で5、6年のときに、遊びの延長から運動のやり方を増やして日常化していく中で、上になればなるほど専門的に球技も楽しみたくなる。5、6年だと、競技をやりながら自分たちでも運営する力はどの程度までやっているのか。

委員

バスケットボールでもサッカーでも、審判能力はある。3、4年生のゲームはルールの工夫もあるが、5、6年はルールはあまり変えない。男女の差異が一番問題。差があり過ぎてしまう。それから地域スポーツに入ってやっている子が顕著に突出してしまう。

事務局

技能面の話がメインだが、他の指導項目も見てバランス、項目の追加削除についても意見をいただきたい。

委員

クラブ・部活動関係について。中体連が存在しているので、大会に出る目的で競技力の向上も目指す。もし6年生の立場でかかわらせるときに、週1回程度、見習い期間にするのか、それともおいしいところ取りで味わわせるのか。中学校3年間として中1の見習い期間が1個ずれるのは、まずいと思う。6年生がかかわったときに、興味・意欲・関心を持たせて楽しいものだと理解させるのと、中1で修業させるのは意味が違う。そこをどうしたらいいのか。

部長

その点については、連携校と一貫校との違いで判断したほうがいい。連携校ならば、興味関心を最大限に高揚させるような工夫で、一貫校で考えるならば、ある程度今まで3年間のスパンで育ててきた部活動を、4年間と考えるべきだと思う。育成期間というかたちで。

委員

6年生の子どもとしての小学校の指導と、かたや中学校流の指導が入るわけで、子どもたちは面食らわないか。あとは体力的な差異。でもやるのであればそれを年々積み重ねて、最終的には4年間の部活として構築するために、小学校の段階から指導も入れなければいけない。だから時折授業でも中学校流の指導が入ると6年生も慣れるのだが。そういうところからもつめていけば、逆に6年生としても面食らうことなく、いい経験になる。いい方向に持っていくために、いろいろなケアを大人がしてあげることが大事。

部長

小6の部活動、地域のチームでスポーツに興味関心を持っている子どもたちの技能レベルは、かなり高いものがある。すべての小6が運動部に入るわけではい。運動部に入る子どもたちの中には初めて入る子もいるだろうが、興味関心とか技能レベルはかなり高いのではないか。

委員

地域の指導者の質の向上が大きい。地域のサッカーチームを見ると、かなり技能レベルでは上がっている。逆に危惧しているのは、規律とか集団とか、部活動で本来身につけてきたようなものが希薄になっている。やはり、そういうことを心身共に鍛えられるような部活動がちょっと早めでやれるのはいいと。ただ全員技能が高いのではなく、その運動は得意だけれどほかは全然できないとか、そういうところはかなりある。

事務局

意見をいただきたいのだが、今の指導要領、新指導要領でも、小学校でクラブ活動のほかに部活動を行ってもよいことになっている。例えば中学校と無理にリンクさせず、希望者を募って部活動を立ち上げて、そこに地域の指導者を入れて体力を高め、高めた体力で中学校の部活動にリンクさせていく方法もある。ずっと話しているのは、中学校の部活動に小学校が入るケース。今回の小中一貫教育の中では「地域社会から外部指導員を迎え部活動を行う」という文言も入っている。本部会としては、どちらの方向でかかわりを考えていくのか。

部長

体力向上委員会の基本的な内容の中に「地域社会から外部指導員を迎え部活動を行うなど発達段階に踏まえた適正な運動の経験を通して体力の向上を図る」という文言がある。そうすると部活動を指導する上で教員だけではなく、外部指導者を迎えることで部活動を補充していこうという考え方が基本的にあるのか。一貫教育を考えたときに、小中の先生たちがある程度協力体制を組むことを考えるならば、部活動も同じようなスタンスを取るべきだ。確かに小学校の部活動でかたちを作って、その上に中学校の既存の部活動を組み上げるという考え方もあるが、そうすると本来の一貫教育はどうなのか。教員の協力体制、お互いの理解、意思の疎通、そういうものも、希薄になってしまう感じがする。

事務局

連携とかかかわりは、同じところで活動するほうが小中一貫の意味合いではあると思う。

教員は異動等もあるし、必ずや指導者が確保されている状況は、小中ともない。その中で部活動を継続していくにあたり、外部の指導者等の協力も活用しながらこの目的に近づけていく。

アドバイザー

この表を完成させるとき、個別具体のものを入れると当然収まらない。だからもう少し大きなねらいだとか、部活動でこの時期に必要な指導として重点になるものは何か。例えば、中1では適正な入部指導みたいなことを大事にやっていると思う。それがこの中に入ってきたほうがいい。連携とか、外部指導員の導入は、この部会で検討するレベルではないと思う。むしろ、

部活動の詳細な資料があるので、いつの時期の何が大事なのかがこの中に入ってくると、いろいろな学校も参考になるのではないかと。例えば体育のさまざまな種目・領域があるが、それについてどうするのか。また動きや技能、運動の楽しさを味わう、親しむ態度は、体育の中で完結させいかなくてはならない。体力向上とリンクさせたとき、この学年のこの項目は、やはりこれが大事ということ。前回、宮野先生が書いた体づくり運動の標記の仕方が分かりやすい。

もう一つ、食育。これは家庭科の中で追うのがいいのかどうか。保健にしても家庭科にしてもそれぞれの指導要領上、指導しなければいけない内容は明確だからそれはそれとして、「健康を保持増進するための知識や理解」としてどれなのか。体力向上の場合は、まず体育で小1から中3までの流れで指導していくこと。それも、体力向上部会として取り上げるとなると、無理があるかもしれない。学校行事も運動会は全学年を挙げてやるから、どう書くのか。

事務局

健康の保持増進のところで、例えば食育の推進とか、基本的な望ましい生活習慣を作るとか、保健の授業だったらこうできるとか、総合だったらこれが入られるとか、そういう見方のほうがいいのかと思った。この項目は、これを知識面とか学習面でどう捉えていくか。

委員

一覧表を整理しながら、プロットに合わせて分担して原稿の作業に入ったら。

事務局

では、最初に渡したプロット案5番、それぞれの項目を詳しく書く。6番「部会で重視する指導項目」が先ほど示した三つの指導項目の中で具体的にどう取り組みができるか。それをこの表にまとめる。全学習期を通じて指導する内容の詳細は来年度の提示でよいのではないかと。

部長

これから先の進め方だが、各重点項目の何をどこで取り扱うかはまだ不鮮明。食育も含めて項目を、ある程度部会の中で共通認識しておかなければ。それぞれの重視する指導項目三つのエリアと、学習全般を通してのところを、もっと我々で話し合っておかないと。

事務局

もう少し具体的にこの時期には何をするかを細分化して示したい。結構枠組みに時間がかかるので、今日はプロットの分担を決めておく。そして、カリキュラムの資料を今後私と赤木先生、杉原先生、米津先生でやり取りして示す。それに関して次回、割り当てられた部分を持ちよって、突き合わせてみるという流れはいかがか。

部長

クラブ活動・部活動という、前回非常に時間を割いて話し合ったところがある。このあたりで考えると非常に分かりやすい。では食育はどうかとか、安全指導はどうなのかを右側で組み入れていくと比較的考えやすい。その指導をどこでどのように実施するかが重要なので、指導する項目が何なのか、それをどこでどの学年体制の中で指導していくのかがこの図に入ると、

全体的なプロットの分担もしやすい。

それからもう一つ、安全指導。子どもの身を守る上での安全指導は、今回の体力部会の目玉にしても面白い。武道の指導だけではなく、子どもたちの身を守る安全も頭に置いて、健康の保持増進のところに入れて、安全指導をやったらまた面白い。

事務局

「健康の保持増進」のところで、枠として一つが食育。もう一つが望ましい生活習慣の確立。そしてもう一つ、今提案の安全指導をこの中に位置付けてはどうか。では、プロットの括り。体づくり運動を担当していただける方。ここに入れる視点として、学習指導要領に沿いながらも練馬区の体力の実態、課題に沿った事例を挙げる。それから、安全という視点で武道の必修化と絡めた運動例の提示。それを盛り込みつつ、体づくり運動を第Ⅰ期から第Ⅲ期で組み立てる。あとはクラブ・部活動。今の流れでいくと、クラブ活動・部活動を行いつつ、小6で連携して行く。あと学校行事で全学年で取り組めるものもあれば、行事によっては小中それぞれで行われるものもあるので、それを位置づける。最後に、「保健」「食育」のところ。ここは食育と望ましい生活習慣の確立で作成してみる。あとは、今挙げた内容が一つと、三つの括り。重視する指導項目のそれぞれをまとめることと、最後このカリキュラムの全般。今、割り当てができるとしたら、1番から4番はこの部会の話し合ってきたことの基本、土台となるので、管理職の先生が固める。5番以降の各分野は、今いる先生方で役割分担する。そして6の「重視する指導項目」は、事務局である程度柱立てして、集大成したようなものを桜小の先生に作っていただけると、バランス的によいのではないかと。まず、今提案いただいた表をなるべく早くまとめて送る。それを基に、割り当てられたところをご記入いただきたい。次回持ち寄って全体を見合わせてみる。12月に第1次報告書の1次案を出すことになっている。

部長

安全面を少し格上げして全面的に出して、体力部会の目玉にしても面白い。そうすると、体力作りの中の項目として「安全指導」を入れたらという話をした。だから高橋先生が、小1から小6、中1から中3までの安全指導の流れを考えるなら、来年につながる資料として使える。

委員

ここに何をを入れるか。運動例を入れるのか、そしてプロットにはその詳しい説明を文章で入れるのかとか。この部会の体づくり運動の目指す方針がはっきりしない。安全指導を入れるのはいいが、それだけが体づくりのねらいではないので、もうちょっとはっきりさせたほうがいい。運動事例は資料として見るのが重要だ。

部長

練馬区の体力的な課題で明らかになっているものを前面に出して、これが一番のメインで、それを解決するための年次を追った指導計画が必要。それプラスアルファで安全指導が出てくる。ただ、練馬区の課題と安全指導だけではないと思うので、体力作りの中にどういう指導項目を盛り込むのか、何をを入れるのかまだ煮詰まっていない部分がある。三つの重点項目の中のどの柱も、指導する項目がまだ「これ」というところまで行っていない。だから、プロットの

係分担を決めるよりもそちらを先に話し合っ確認を取らないといけない気がする。

事務局

体づくりで、それぞれそれぞれの学年でどういうものを取り扱うかは指導要領に出ているので、運動事例として本区の課題の敏捷性とか持久力の中に織り込んでいくかたちになるかと。そしてそこに、安全指導の面からの運動事例も入れていけるかと。このあたりをまず押さえ、どういうことを標記しなくてはいけないかを固めなくてはいけない。なかなか話し合える機会がないので、どの分野を担当するかを今日は決めさせていただく。内容についてはまた赤木先生、米津先生とも話して、固まった部分をお知らせして書いていただくことになる。それでよいか。

委員

私は体づくりということで、体育のほうでお願いしたい。ただ方向性が分からないと取り上げるものが分からない。

委員

私はクラブ・部活動関係を。小学校の指導の勉強をさせていただいた上で、そのへんを一緒にやる方がいたら。

委員

では私は体づくり運動の中学校のほうで。

事務局

私は6番の「重視する指導項目」を。1から4は赤木先生、杉原先生と相談して決めたい。あと欠席の先生には、事務局から内容を割り振りさせていただく。

委員

学校行事は、その学校の方が入ったほうがいいのではないかと。それに近いかたちで計画してあることが分かっているならば、それに基づいたことが書けるのではないかと。まるっきり違う学校行事をこちらが提言して、来年やらないとなるよりも、今あるものがベースになると思う。

事務局

こちらの表に関してはもう少し精度を高めてお示しをさせていただく。

*次回日程：11月2日 15時半～ 同会場にて